

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-------------------|
| 事業所番号 | 4070100989 |
| 法人名 | 株式会社 友愛エアシステム |
| 事業所名 | グループホーム友愛 |
| 所在地 | 福岡県北九州市門司区青葉台6番1号 |
| 自己評価作成日 | 平成25年5月 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|---------|-------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市戸畑区境川1-7-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年6月24日 | 評価結果確定日 | 平成25年10月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・豊かな自然に囲まれて四季の移ろいを肌で感じられる閑静な住宅街に立地しています。一日の始まりに欠かせない散歩では小鳥のさえずりを聞きながら利用者、職員共々心豊かな気持ちになります。ホーム内は太陽の光がたっぷりと降り注ぐ明るく開放的な空間となっています。そこでは利用者が日々の暮らしの中で一人ひとりが役割を持って生活をし、知らずしらずのうちにリハビリが行えるように工夫しています。ご家族を交えた定期的な食事をもち、ご本人の様子や日頃の生活ぶりをご家族に見て頂き、交流を図っています。看護師を配置して健康管理に留意すると同時に主治医による定期的な訪問診療を行い、緊急な場合に備えて24時間体制で医療の連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置するホームは周囲の住宅地に違和感なく溶け込み、周囲には自然も多く残る、豊かな住環境の中にある。運営推進会議等を通じて、地域の活性化に向けた話し合いも行われており、近隣に新たに開設された同法人のデイサービスや住宅型有料老人ホームとの連携も活かし、地域拠点としての活動展開が始まっている。
日々の記録には、入居者の方々の言葉や表情の変化、何気ない仕事等が丁寧に記載され、管理者、職員が、馴染みの関係性の中で気づきを重ね、個人の理解や心身の変化に向き合おうとする取り組みが伝わってくる。「食」の充実や住環境の豊かさを活かした五感刺激の場面も多く、日常の暮らしの活性化につなげている。今後も個別支援の追求や、地域の中で存在の高まりが大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝礼時に理念唱和を行い、日々の行為が理念に基づくものか検証しています。 | 理念とする「私たちの願い」を掲げている。これまでの3項目に加え、職員間で検討し具体化した項目を入居者の方に清書して頂き、掲示している。日常の中で確認する機会を持ち、浸透を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会の行事(町づくり美化運動・グランドゴルフ・餅つき大会)に参加し、ホームへの理解を深めてもらうと同時に、地域の方々が気軽に訪問しやすい環境作りに努めています。 | 自治会に加入し、自治会役員を務めている。町づくり美化運動への協賛や、地域行事への参加を通じて、連携や交流を図っている。また、近隣の同法人デイサービスとの合同行事を地域に案内しており、環境整備にも協力を得ている。運営推進会議等を通じて、町内会の活性化について話し合いが行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 学童保育の児童訪問受け入れを継続させています(父兄・教師・民生委員を含める) | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域の民生委員、町内会長、地域包括支援センター、家族会の方々と交えて、ホームの方針・活動状況など報告し、またある1日の生活や行事の記録、困難事例など紹介して、意見や気づきを委員の方々に伺ってケアに活かしています。 | 運営推進会議は、家族、町内会長、地域住民代表、地域包括支援センター職員等の参加を得て、定期開催されている。地域より、町内の活性化に関する働きかけも行われており、地域会議としての役割も担おうとしている。家族には、毎月の友愛だよりを通じて案内を行っており、議事録を閲覧可能としている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 社協による生活相談員受け入れを再会しました。また、運営推進会議に於いて地域有識者・町内役員及び、地域包括支援担当との連携強化を図っています。 | 運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。市担当者とは、不明な点等について問い合わせを行い、連携を図っている。行政主催の研修に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 原則行わないことを職員全員が周知していますが、身体拘束に係る事例を想定して、皆で検討会議を行っています。判断に迷う場合のマニュアルを作成して対応の手順を全員が共有しています。例えば夜間、利用者が他の居室に侵入してきて迷惑かけたり、相手に怖い思いをさせないためには、どうすれば良いのかなど。 | 2階の居室へエレベーターを使用し、自由に行き来する方の姿も見られた。事例検討や具体的なマニュアルの作成、リスクマネジメントについての意識を高め、身体拘束を行わないケアについて理解を深めている。外部研修には新人職員への参加を促し、勉強会にて伝達を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 下記の事項に重点を置いて取り組みを行っています。①ご利用者に対して介助する側での立場で物事を進めない。②指導的態度や言葉使いは絶対に避ける。③ご利用者の精神的な自立を尊重する。④習慣や好みを熟知して、職員で情報を共有する。 | | |

福岡県 グループホーム 友愛

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見の活用者1名。後見担当者の定期的な訪問を受けて都度ご本人の身辺の状況など打ち合わせを行っています。また担当者を通じて、各職員が後見制度について学ぶ機会も得ています。 | 現在、制度を活用している方もおり、後見人との連携や情報共有を図り、職員は、制度の意義や理念について、理解を深めている。事例等をもとに意見を出し合い、学ぶ機会としている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書や重要事項書は難解な文章にせず、事前に書類を利用者や家族にお渡しして、予め読んで頂き、質問を受けやすくし、説明する際は十分に時間をかけて具体例を挙げながら、分かり易く説明するよう努めています。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に、ポスターやその他の資料(外部評価資料・外部公表資料)を展示しています。また、意見箱を設置して要望や介護相談に応じ、ホーム運営やケアに反映させています。 | 通信「友愛だより」の行事予定欄には、運営推進会議の開催案内を行い、積極的な参加を求めている。また、行事への参加機会も多い。日常的に家族の来訪が多く、意見や要望の収集に努めている。生活相談員の受け入れを行っている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 他施設職員との交流(老人ホーム・通所介護) 毎月、定期的な会議を設けて問題点や新しい提案など出し合い、改善すべき点があれば、積極的に取り入れて実践しています。 | 毎月、会議を実施し、職員の意見や提案を収集している。法人代表者も直接業務に接する中で、現状の把握や風通しの良い環境づくりに取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 運営者自身も介護職の一員であり、良く職員個々の勤務状態を把握しています。定例のカンファレンスの場では、成功事例は皆で称賛し、資格取得による手当や待遇を行い、各職員の自己啓発に努めています。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 男女年齢を問わず、資格を有することにこしたことはないが、その人の介護に対する考え方や人間性を重視しています。また有識者の研修会や講演会などに参加して社会参加や自己実現の意欲が持てるよう努めています。 | 職員の採用にあたり、年齢や性別に排除は行っていない。現在、10代から70代の職員が勤務し、職員体制は安定している。個別の勤務形態等に配慮しながら、調理を担当する等、個々の能力を発揮する場面がある。外部研修への参加を促し、資格取得へのサポートも実施している。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | プライバシーの保護に対する介護サービスの均一化を行うことによって知識を身につけます。またサービスの提供に際して知りえた利用者や家族などの個人情報についても守秘義務を徹底しています。そのための具体的な事例をあげて勉強会など行っています。 | 行政主催の研修参加や内部での勉強会実施、また、コンプライアンスへの意識も高めながら、人権教育、啓発に努めている。 | |

福岡県 グループホーム 友愛

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修会(社会福祉協議会・市介護保険課・民間などが主催する)に各職員の段階に応じ、また特別なテーマについては希望者を選定して参加しています。さらに参加した職員はホームに持ち帰り、皆で検討会を行っています。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホームや職種の違う介護サービス事業所に見学に行き、困難事例や同じ悩みを出し合い解決策を検討しあっています。良い所は積極的に取り入れていこうと思っています。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントには利用者や家族から十分な時間を取って頂き、職員は感度を高めて、普段の何気ない会話の中から今の希望や何についての不安を持っているか察知して、介護計画を立て、本人が安心されて介護サービスが受けられるよう努めています。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 機会あるごとに必ず事務所に立ち寄って頂き、現状の報告と相手からの要望や不安に思っていることを聞き取りしたり、訪問が困難な家族へは定期的な電話でのやりとりでコミュニケーションを図っています。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 大抵の入居希望者は独居暮らしが長く、家族は一人であると危険だという認識がなく、詳細なことまでの把握がなされていないのが実情です。まずは当面の要望や不安なことへの対応から始めて、徐々に新しい環境に慣れて頂く事に努めています。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者一人ひとりの個性や意思を尊重して、特技や趣味が活かせるよう出番や役割を分け合い、共に生活をしているという実感を持って頂きます。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ホームは家族と情報を共有して一方的なケアにならないよう家族の要望や不安を考慮しつつ、理解と協力を得ながら介護を進めていきます。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人に会いたい時、馴染みのお店に行きたい時、家族と連携を取りながら本人の希望に沿うよう便宜を図っています。(直接訪問するとか、ホームへ来て頂くとか、また遠方の方へはお手紙を出すとか)行事やイベントがあるときには招待申し上げたりしています。 | 地域の祭り等、行事への参加を通じて、旧交を温める機会もある。また、家族との連携による法事参加や、自宅で近親者と過ごす時間を持っている。ホームでの行事には、家族が参加する機会も多い。 | |

福岡県 グループホーム 友愛

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 1つのチームを組んで、ゲームをしたり、作業を行う機会を作り、良い関係になれるよう努めています。貼り絵、食材の下ごしらえ、ペアを組んで散歩等 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退室後は連絡先を明確にしておき、その後の暮らしぶりや近況を互いに知らせあつて遊びに来て頂いたり、こちらからも訪問しています。また手紙のやりとりも行っています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の意思を尊重してその要望を達成できるよう努めています。そのためには、職員間での情報の共有は欠かせません。特に言葉で表現できない人やすぐに忘れてしまう人に対しては顔の表情や行動パターンによって理解できるよう、常に職員の感度を高めてケアに当たっています。 | 安定している職員体制を活かし、馴染みの関係性の中で、何気ない表情や仕草の変化を大切に捉え、気づきを共有できるよう、職員教育に努めている。また、記録の基準を示し、共有しやすい工夫している。個別のカンファレンス等を通じて、本人本位の検討を行い、実践へと結び付けるようにしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 独居暮らしが長く情報が得られにくい場合がありますが、本人や家族から、これまでの情報を収集し(若くて元気だった頃やどんな些細な事でも)ささいな情報を積み重ねて、よりよい介護計画に上げていきます。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の生活様式は押し付けるものではなく、その生活パターンはその時々で変化していきます。本人の状態や希望に沿うよう、都度経過を見ながら臨機応変に対応していきます。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | スタッフが日常の見守りや援助する中での気づきや本人の意思・家族の希望を汲み取り且つ主治医との医療分野での連携をとりながら、課題と目標を設定した介護プランを立てて、実践しています。 | 担当者会議やカンファレンスを通じて、関係者の意見を集約している。丁寧に課題が抽出され、細やかな視点と個性ある介護計画が作成されている。3ヶ月ごとに評価を行い、見直しの必要性を検討している。 | 実践されている暮らしの継続に向けたアプローチや認知症ケアの視点等を、本人本位の視点で具体的に盛り込むことで、関係者間での共有がしやすく、モニタリングも実効的に作用すると思われます。 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のファイルと介護日誌及び職員連絡帳を作成しています。介護日誌には日々の状態を時系列で記録し(本人が行ったこと、援助した事、会話したこと、バイタル、食事摂取状況等)表紙には基本情報が一目でわかるようにして、気づきや変化に関しては職員連絡帳にて情報を共有してケアに活かしています。 | | |

福岡県 グループホーム 友愛

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 多岐にわたるボランティアの受け入れイベント行事(敬老会・誕生会・クリスマス会など)に家族を招待し、食事や催し物を共に楽しんでいます。また共に食事をすることもあります。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の所轄機関には、ホームの存在は認知され、ホームPRの情報発信を行うと同時に、各機関からの援助・協力を受け易い環境作りを行っています。地域資源である公共機関(自治公民館、福祉センター・植物園やその他)をフルに活用させて頂いています。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の意向を尊重した主治医に受診していますが、特に主治医の指定がない場合には、ホーム専属の主治医の定期往診を受け、医療と健康管理を24時間体制で行っています。看取りの段階の入居者には特別チームを編成し、(医師、看護師、訪問看護ステーション、家族)医療と介護の両立を図っています。 | 入居時に、かかりつけ医について確認している。協力医による定期的な訪問診療や、家族との連携によるかかりつけ医への受診により、適切な医療を受けられるよう支援している。訪問看護との連携や、職員による観察力を高め、健康管理や早期対応へとつなげている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションとの契約により、専属の看護師が24時間体制で日常的な健康管理を行い、状態悪化時には主治医との連絡調整を行い、適切な処置ができるよう、体制を整えています。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との文書による契約を交わしており、入院時には、迅速に情報提供書を提出し、これまでの病歴や生活習慣を知って頂きます。また定期的な見舞いと病院担当者(主治医・看護師)との面談を行い、家族との橋渡し役となり、状態把握に努めています。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りの指針を作成して、全職員・家族・主治医が今後起こりうる事と受け止めます。また日頃より利用者本人及び家族に方針を理解して頂き意思確認と環境作りにも努めています。現在、実践しています。 | 入居時に、看取りに関する方針を説明し、意向確認を行っている。状況の変化に伴い、家族や医療関係者、職員との話し合いを重ね、方針を共有している。現在、終末期の支援も行われている。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 日勤帯と夜勤帯に分けてマニュアルを作成して、万が一の事故発生に備えて実施訓練を全職員で行っています。またヒヤリ・ハットを活用して事故防止に関する検討会も行っています。 | | |

福岡県 グループホーム 友愛

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 非常災害に備えて、緊急連絡先・避難場所を指定して定期的な訓練を行っています。また地域の自治会に参加して緊急連絡網を作成し、近隣との協力体制を構築しています。但し、風水害・地震に対する防災計画については最悪時を想定した場合の対応に果てしなく困難を極めています。 | 年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。事前に訓練実施の声掛けを行い、近隣の方々へ協力を要請している。2階からの避難を想定し、階段にはスロープが設置できるよう工夫されている。今後は、近隣の同法人事業所との実行的な連携を構築していく意向である。消防署に、運営推進会議への参加を要請している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人の習慣・習性を理解し、悪い習慣であってもその場で注意するような声掛けは避けて、それとなくその場から離し、他の事に関心を移すよう努めています。また個人情報のマニュアルを作成して、全職員が秘密保持の原則を徹底しています。 | 個別の生活習慣やリズムの把握に努め、その尊重に努めている。また、必要な支援を見極め、自尊心の回復に向けたアプローチや達成感の共有を図っている。自室の鍵を施錠する方もおり、安全面への配慮を行いながら支援している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個性や能力を把握し、その人のレベルに沿った介助や働きかけに努めています。動作が遅くとも自分で行うことについては予想できることを何件か質問し、本人に選択してもらっています。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人の自主性を尊重し、ご自分でなさろうとすることには、手を貸さず見守りだけにしています。出来たときには共に喜びを分かち合います。また必要な介助は声掛けしながら行っています。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝食前や入浴後は、皆様の整容の時間をとっています。また外出時には、お化粧もして、ご本人の気に入った服装になるよう援助しています。理容・美容については、特に希望がない場合は定期的に美容師さんに来てもらっています。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節に応じた旬の食材を選び、季節感を感じて頂いています。フキやツワの皮むき・ゴマすり・ぜんざいの団子作り・下ごしらえなど手伝って頂き、出来上がり時には会話が弾んでいます。 | 近隣で採られた筍やふきのとう等が食卓に上ることもあり、調理の段階から季節感を味わうことが出来る。嗜好や状況、バランス等に配慮された献立が作成され、盛り付けも工夫され、視覚からも「食」を楽しむことが出来る。個々の反応等を観察しながら、細やかな心配りや、サービス向上への意識の高さがうかがえる。下ごしらえや後片付けに、個々に応じた力を発揮してもらっている。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バランスの良い(栄養・量・おいしさ)料理や個性や体調に気を配りながら提供しています。また水分補給に関しては、常に摂取量に気を配り、お出しするものがマンネリ化しないよう工夫(果物や野菜のジュース・スポーツ飲料)しています。 | | |

福岡県 グループホーム 友愛

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアは欠かしません。その人の能力に応じて介助しています。就寝する際は義歯のある人は、ポリでんとで洗浄・消毒してケースに収納しています。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 現在オムツの方は2名います。その他の方には定期的な声掛けによるトイレ誘導は失禁・失便の減少に効果があります。但しご本人のプライドを傷つけないよう工夫しています。また見守りが必要な方には、本人も納得のうえで、最後まで見届けています。深夜、失禁の多い方には転倒に注意しながらキメの細かいケアを行っています。 | 排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間も含め、個別のニーズを検討し、支援を行っている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便のチェックは日々行い、料理を提供する際は、消化の良い食材を選んで、献立しています。また腸の運動を活発にするよう、毎朝の体操と散歩は欠かしません。自分で動作出来ない方には、職員が腹部マッサージを行い、腸に刺激を与えています。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 皆様の要望や一人ひとりの健康状態に合わせて1日おきに対応しています。また浴室が楽しい場所になるよう全国の温泉入浴剤を用いたり、職員との会話に花が咲き、雰囲気が変わった、リラックスしたコミュニケーションの場となっています。 | 週3回、午前の基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調等に応じて、無理強いとならないよう支援している。入浴剤を使用し、個別のコミュニケーションを大切にしながら支援を行っている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼間に散歩や体操など個人の能力や習慣に応じて適度な運動に心がけています。体調がおもわしくない場合は部屋か、リビングのソファベッドで休んで頂きます。夜間は昼間の適度な疲労が良眠を促しています。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医の処方により調剤薬局が定期的に訪問して個人毎、朝・昼・夜・眠前に分けて梱包したものを職員管理のもとで服用しています。薬品名や目的などは個人の薬箱正面にラベルを貼り、職員は服用後の症状や変化に気を配っています。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 行事計画を皆様に知って頂き、生活の目標を設定してメリハリをつけていくよう努めています。①個々の趣味や特技を活かした役割を持って頂く。②全員で(買い物・誕生会・季節に伴う行事・ハイキング・ドライブ・ボランティア) | | |

福岡県 グループホーム 友愛

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩・買い物・家族のもとへ一時的な帰省・弁当持参のハイキング・ドライブ・市民センターや公民館で外部の方との交流に心がけています。 | 眺望のよい高台に位置し、希望や体調、季候等に配慮しながら、近隣の散策や外気浴を行っている。門司港みなと祭りのパレード見学や植物公園、初詣、地域行事等への参加を企画し、家族にも案内しながら、外出支援を行っている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は大切だという認識はありますが、所持すれば必ず紛失するので、ホームでお預かりしています。個人差はありますが、ご自身のお金を使って欲しい物を買う人はごく少数です。買い物の楽しさを味わって頂くために、ホーム共通の買い物に参加して頂いています。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状や季節の変わり目などに、ご本人より家族や知人宛に手紙を書くよう、レクの時間を利用しています。電話をかけたいという人は稀ですが、こちらから声掛けて、「どこに、誰に」など呼びかけたりして導いています。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 車椅子でも移動できる十分な空間があります。ホール・リビング・廊下には入居者と職員の手作りカレンダーや作品、行事や日常生活の写真など展示しています。四季折々の花や植物を何気なく飾り、調度品や家具など家庭的なものを使用しています。 | 建物外観や内部の共用空間は、施設感を感じない、家庭的な雰囲気がある。居間・食堂は採光も良く、廊下はゆとりある広さが確保され、エレベーターで2階居室へ自由に行き来している。以前和室に掘り炬燵があった場所は、フローリングへと変更され、空間が広がっている。2階には、天窓も設けられている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 以前リビング横に掘りごたつ風にした空間がありましたが、好んで使用される方が少なく、失禁の原因になるため、フローリングにしてソファベッドを設置すると重宝がられました。またフローリングのデッドスペースには利用者同士の会話が楽しめるようなテーブルセットを用意しています。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には使い慣れた家具や生活用品・装飾品などが持ち込まれて個性豊かな空間となっています。その反面、認知症が重度化するにつれ、清潔さや安全を保つという面では、部屋が簡素になってくるのも否めません。 | 1階に2部屋、2階に7部屋の居室となり、エレベーターで自由に行き来している。ベッドの配置や動線の確保等、個別の状況や安全面への配慮が行われている。馴染みの筆筒や趣味の道具等が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個人差はありますが、それぞれに適した道具や物品を揃えています。(歌本・習字セット・五目盤・漫画本・カラオケセット・輪投げセット・ボーリングセットなど)利用者によっては基本的なことから介護計画を見直す方もおられます。能力と意欲のある方は、個人的に満足高められるようレベルアップを図っています。 | | |